



藁谷 収

岩手高校新二十四回生
岩手県立美術館長

小笠原哲二先生が岩手日報に掲載された文章の中に
このような文章があります。

「四季の移ろいの速さをなげき、栄枯盛衰のはかなさを
詠じた無情詩人の文学や詩歌を私は好まない。

人生は苦難の道を追求することではないだろうか。

幾多の矛盾否定を浄化して肯定の彼岸へとたどる努力の
ためにあるのだと思う。」

タバコを唾えながら、画布の前に立つ先生の深い心内は、
私には何も解らなかつた。

今、美術館に飾られている絵の中に、厳しい眼差しを
見るような気がします。

確かな画技、厳しい造形追及、豊かな思想の表現を
余すことなく発しています。